

**第2次南アルプス市総合計画
後期基本計画・施策マネジメントシート**

作成日: 令和6年 7月12日

更新日:

政策No.	1	政策名	安全でみどり豊かな 人がつながるまちの形成	施策主管課	観光推進課
施策No.	6	施策名	自然との共生	施策主管課長名	飯野 一幸
施策関連課名			環境課		

1 施策の目的と指標

(1)対象(誰、何を対象としているのか) ※人や自然資源等	A) 市民 B) ユネスコエコパークのエリア(市内全域)	(3)対象指標(対象の大きさを表す指標)	A	人口	単位	人
			B	市面積	単位	km ²
(2)意図(この施策によって対象をどう変えるのか)	A) 自然環境を保全、活用する B) 生物多様性が保全される	(4)成果指標(意図の達成度を表す指標)	①	ユネスコエコパークについて知っている市民の割合	単位	%
			②	南アルプス(広河原)を訪れたことがある市民の割合	単位	%
			③	希少種の数	単位	種類
			④			
成果指標設定の 考え方 (成果指標設定の理由)	①	ユネスコエコパークの認知度を示す/平成26年に南アルプス地域がユネスコエコパークに登録されたが、その認知度が伸び悩んでいる。市民が自然環境を保全・活用するためには、自然と人間社会の共生を目的とするユネスコエコパークについて知ることからはじめる必要があるため、成果指標とした。				
	②	市民の自然環境の活用度を示す/市民が自然環境を活用していることの1つに、ユネスコエコパークの核心地域に足を運ぶことが挙げられるので、成果指標とした。				
	③	生物多様性の保全状況を示す/保護すべき希少種の個体数が増加し、希少種から外れることは、生物多様性が保護されている状態だといえるので、成果指標とした。				
	④					
成果指標の 測定方法 (どのように 実績値を把握するか)	①	市民アンケート調査『平成26年6月に「南アルプス」がユネスコエコパークに登録されました。あなたは、ユネスコエコパークについてご存知ですか』において、「知っている」と回答した人の割合				
	②	市民アンケート調査『南アルプス(広河原)に行っただけですか』において、「はい」と回答した市民の割合				
	③	山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例における南アルプス市域の指定及び特定希少野生動植物種数(定期的なモニタリング調査により生息数を把握)				
	④					

2 指標等の推移

指標名	単位	数値区分	前期基本計画					後期基本計画				
			H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
対象指標 A 人口	人	見込み値					71,089	70,568	70,041	69,521	68,996	68,430
		実績値	72,305	72,018	71,880	71,602	71,370	71,249	71,395	71,434	71,511	
		見込み値					264.14	264.14	264.14	264.14	264.14	264.14
		実績値	264.14	264.14	264.14	264.14	264.14	264.14	264.14	264.14	264.14	264.14
成果指標 ① ユネスコエコパークについて 知っている市民の割合	%	目標値	30.0	35.0	40.0	45.0	50.0	32.0	35.0	38.0	41.0	45.0
		実績値	38.3	32.3	33.2	31.9	32.1	30.2	31.2	32.4	34.5	
		目標値	-	-	-	-	-	50.0	55.0	55.0	55.0	55.0
		実績値	-	-	-	49.7	51.2	50.0	67.9	71.0	70.3	
② 南アルプス(広河原)を訪れた ことがある市民の割合	%	目標値	-	-	-	-	-	22	22	22	22	22
		実績値	-	-	-	-	-	22	22	22	22	22
		目標値	15	15	15	15	17	17	17	17	17	
		実績値	15	15	15	15	17	17	17	17	17	
③ 希少種の数	種類	目標値										
		実績値										
		目標値										
		実績値										
目標設定の考え方・理由(可能性と必然性)												
① 前期基本計画の期間中、実績値は右肩下がり、成り行きでは認知度は足踏み状態になる恐れがある。前期の目標値(50%)と現況値(平成30年度実績・31.9%)に開きがあるため、後期では目標を見直し、5年間で毎年3ポイントずつ上昇させ、令和6年度には45%とした。												
② 令和3年度には広河原山荘がリニューアルオープンすることに伴い、成り行きでも若干伸びると見込むが、この好機にさらに市民の関心度を高めて現地に足を運ぶ市民を増やすことを目指して、令和6年度には現況値より約5ポイント増の55%とした。												
③ 山梨県希少野生動植物種の保存に関する条例の指定、特定野生動植物のうち南アルプス市域に生息するのは15種だが、後期基本計画期間において新たに希少種に指定される動植物がない(個体数が減り希少種となってしまう動植物を増やさない)よう、現状を維持していくことを目標とした。												
④												

3 施策の役割分担

①市民(市民、事業所、地域、団体)の役割(住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	②行政(市、県、国)の役割(協働を進めるため市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
地域の自然環境について関心を高めること。 地球温暖化に対して自らが暮らすのなかで実行すること。(ゴミの削減、省エネ、節水、自然環境の保護等)	自然環境保全対策を進める。(希少種の保護保全、調査) 本市及び南アルプスの自然環境について理解を深めてもらうための普及啓発事業の実施。拠点施設を有効に活用しながら子どもたちへの環境教育の実施を行う。 省エネ活動を推進するための各種普及啓発事業の実施。(エコ工作教室、緑のカーテン推進等)

4 施策の状況変化・住民意見等 ※目標設定の前提とした後期基本計画策定時点の状況変化・住民意見等を記載しています。

①施策を取り巻く状況変化(対象や根拠法令等は、今後(～R6年度末を見越して)どのように変化するか?)	②関係者からの意見・要望(この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?)
温暖化や人為的な影響を受けることによる動植物の生息地の変化や移動。 人為的な行為による希少種の減少。(盗掘や採取等) 加速する地球温暖化現象。	自然環境の保護を進めて欲しい。 故郷の自然環境について理解を深めたい。 地球温暖化抑止のための省エネ活動の実践。

5 予算等の推移

※当初予算。骨格予算の年度は6月補正後

区分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	
関連事業本数	13	13	14	13	14	
関連事業予算額(単位:千円)	42,624	39,883	53,145	48,132	52,845	
(予算額の内訳)	国庫支出金	0	0	0	1,900	0
	県支出金	182	162	212	212	212
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	9,926	9,142	18,333	13,555	33,398
	一般財源	32,516	30,579	34,600	32,465	19,235

(1) 目標達成度(目標値との比較)		※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)				
<input type="checkbox"/> 目標より高い実績値だった	<input type="checkbox"/> どちらかといえば目標より高い実績値だった <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおりの実績値だった <input type="checkbox"/> どちらかといえば目標より低い実績値だった <input type="checkbox"/> 目標より低い実績値だった	・成果指標①「ユネスコエコパークの認知度」については、前年から2.1ポイント上昇したものの目標値より6.5ポイント下回った。ユネスコエコパークのイメージとして、北岳などの高山地帯を指し、市民には身近なものではないと捉えられている感があることや、日常的にユネスコエコパークという文字や言葉を目にしたり聞いたりしないことも認知度の上がらない理由のひとつだと思われる。また、その理念や制度について理解をしている市民は少ない。 ・成果指標②「南アルプス(広河原)を訪れたことがある市民の割合」は前年から0.7ポイント下回ったが目標値も15.3ポイント上回った。 ・成果指標③「希少種の数」については、目標値22に対し実績値17と昨年と同様であった。希少種数を増やさないことが目標であるため、目標は達成されている。				
(2) 時系列比較(どのように変化してきたか)			※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)			
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した			<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	・成果指標①「ユネスコエコパークの認知度」については、平成27年度と比較すると3.8ポイント減と減少しているが、ここ数年はゆるやかな上昇傾向にある。登録直後は報道などで取り上げられる機会も多く、関心が高かったものの、経年で見ると認知度は下降傾向で推移している。 ・成果指標②「南アルプス(広河原)を訪れたことがある市民の割合」については、前年から0.7ポイント下回っているが、ここ3年間は上昇傾向にある。 ・成果指標③「希少種の数」について、希少種は山梨県条例で保護されており、希少種の生息環境が急激に変化しなければ個体数の減少や絶滅には至らないと思われる。		
(3) 他団体比較(近隣他市、県・国との比較など)					※背景・要因と考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)	
<input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である					<input type="checkbox"/> どちらかといえば高い成果水準である <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準である <input type="checkbox"/> どちらかといえば低い成果水準である <input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である	・成果指標①「ユネスコエコパークの認知度」について、国内のユネスコエコパークは10地域あり、単独の自治体で運営するユネスコエコパークと複合自治体で運営するユネスコエコパークに分かれるが、いずれも認知度不足は否めず、市民への周知や啓発活動ほどの登録地でも課題となっている。 ・南アルプスユネスコエコパーク構成市町村において専門の係や担当が置かれているのは、本市、伊那市(南アルプス課エコパーク・ジオパーク推進係)、静岡市(環境共生課エコパーク推進担当)のみである。 ・成果指標②「南アルプス(広河原)を訪れたことがある市民の割合」については比較対象はなし。 ・成果指標③「希少種の数」については県条例によるもので比較対象はなし。

7 基本計画期間における施策方針

(1) 施策の基本方針
ユネスコの正式事業であるユネスコエコパーク(生物圏保存地域)の理念を普及し、日常生活においても南アルプスの自然環境の保全について意識を高める。

8 施策の目標達成のための基本事業の今年度(R6年度)の取組(事務事業)状況・今後の課題と次年度(R7年度)の方針

基本事業	今年度(R6)の取組(事務事業)状況及び今後の課題	次年度(R7)の方針
1 国際連合とユネスコの事業についての啓発	令和3年度から開始したユネスコエコパーク学習支援事業の実施。市内全15小学校において、授業の中で生物多様性などについて、学習している。また、令和4年度から新たに白根高校も加わった。 また、令和5年度から新たな取組として生涯学習課と連携してジュニアリーダー研修の中高生が緩衝地域である楡形山で市民団体と共に、保全活動を実施している。 これらの取り組みは、次世代を担う子供たちが、将来ユネスコエコパークを持続するために自分たちに何ができるかを考える良い機会となっている。 今年度は南アルプスユネスコエコパーク登録10周年となるため、記念の展示会を美術館で行うほか、10周年の活動等をまとめたデジタルフォトブックを作成、フォトブックは小中学校で活用していただくほか、市のSNSなどでも発信していく。 今後も、教育委員会・学校の意見を共有し、学習支援事業を継続していく。 課題は、ユネスコエコパークの取り組みは内容が幅広く、あらゆる年齢層への啓発や市民参画の場を構築するのが難しい。	引き続き学習支援事業の実施、デジタルフォトブックの活用などにより、若い世代への周知活動を継続していくとともに、SNSや市の広報誌等で広く市民にむいた啓発活動を実施していきたい。
2 生物多様性の保護・保全活動の推進	楡形山(アヤマ平・裸山)の防鹿柵の維持・管理。 これまで、防鹿柵により鹿の食害を防ぎ、保護・保全ができていたと考えられていたが、令和3年度に続き令和4年度の調査では、ネット内のアヤマの数が減少しているという結果が出た。しかし、令和5年度、令和6年度と増加しているため、天候等による影響があったものと考えられる。また、アヤマ以外の植物については回復傾向にあり、特に希少種の復活については、年々株数が増加している。希少種については、盗掘の懸念もあるため、カメラ設置、盗掘抑制のための看板を設置するなど対策を行っている。 今後の課題は植物減少、増加の要因が鹿以外にもあることを学術的に検証する必要がある。 また、楡形山アヤマ保全対策検討委員会では、防鹿柵で囲っていない場所については、シカの食害が深刻化しており、楡形山の象徴である原生林の樹木の幹の剥皮により枯死、また幼樹が育たない状況を確認している。そのため、令和5年度から原生林部分に順次試験的に防鹿柵を設置しており、令和6年度も延長450mの設置を予定している。	楡形山(アヤマ平・裸山)の防鹿柵の維持・管理。柵内のアヤマまたその他の植物については、引き続き調査を実施し、検討会において調査・検証を進めていく。 希少種の保護について、他の山域での保全活動についても確認しながら、盗掘されない対策を行う。 また、原生林については、令和7年度についても計画的に防鹿柵を設置し、検証を進めることとなる。
3 自然エネルギーの有効活用と普及促進	自然エネルギーの活用として、公共施設に太陽光発電システムの導入を図っている。また、水力発電については、機器の老朽化等に伴い発電量の低下がみられるが、適正な管理等により、減少幅の抑制に努めている。	引き続き、公共施設への自然エネルギー機器の導入促進、水力発電所の適正管理を行うとともに、家庭や事業所への自然エネルギー活用に向けた啓発を行い、自然環境の保全につなげていく。